

第4期
洲本市地球温暖化対策実行計画
【事務事業編】
令和7年度 結果報告書

令和8年7月

洲本市 市民生活部 生活環境課

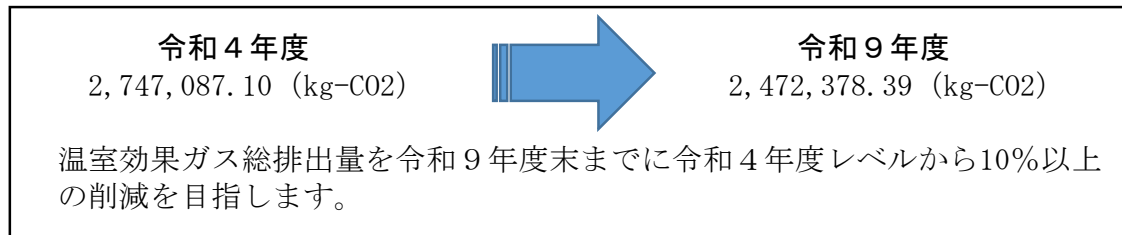
1 計画の概要

(1) 計画の期間

基準年度：2022（令和4）年度
計画期間：2023（令和5）年度から2027（令和9）年度の5年間

取組みの進捗状況、目標の達成状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。

(2) 計画の目標



<算定対象の温室効果ガス>

種 類	係数	発生源等
二酸化炭素 (CO ₂)	1	産業、民生、運輸部門などにおける燃料の燃焼に伴うものが、全温室効果ガスの9割程度を占め、温暖化への影響が大きい。
メタン (CH ₄)	25	稲作、家畜の腸内発酵などの農業部門から出るものが、半分以上を占め、廃棄物の埋立てからも2～3割を占める。
一酸化二窒素 (N ₂ O)	298	燃料の燃焼に伴うものや農業部門からの排出が、それぞれ3～4割を占める。
ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	1430	エアゾール製品の噴射剤、自動車用エアコンディショナーや冷蔵庫の冷媒、断熱発泡剤などに使用。

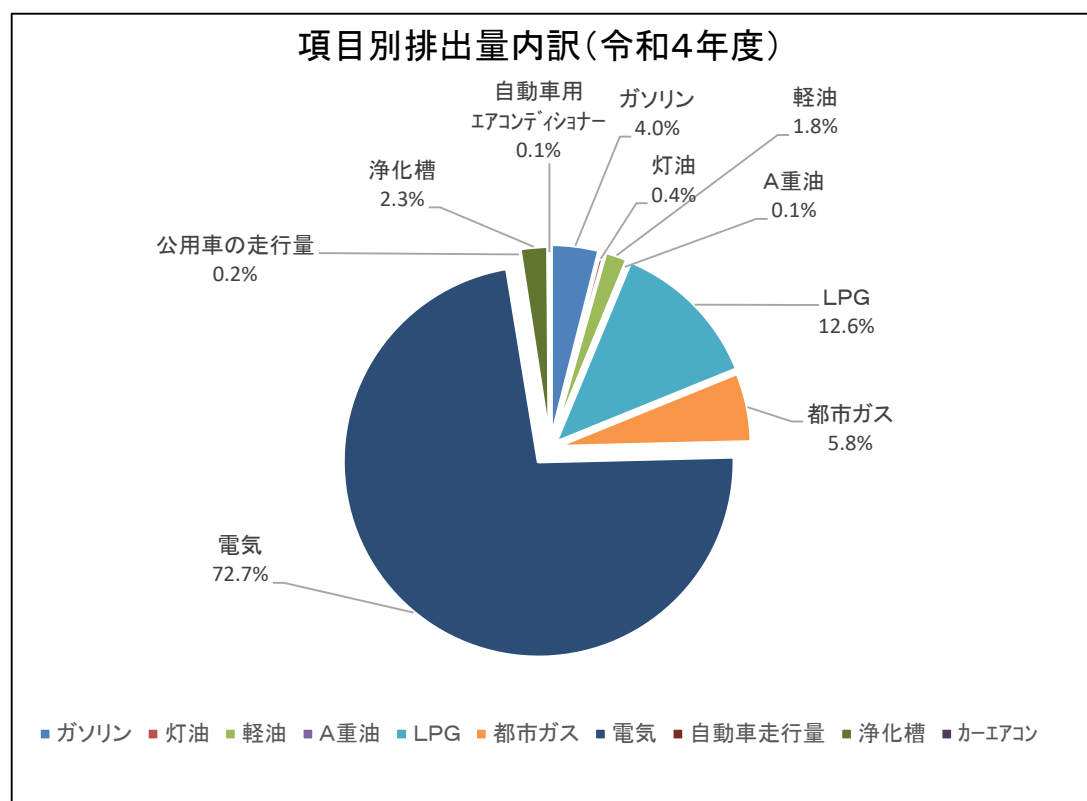
<基準年度の総排出量>

●種類別排出量

ガスの種類	ガス排出量 (kg)	CO ₂ 換算排出量 (kg-CO ₂)	比率 (%)
二酸化炭素 (CO ₂)	2,670,808.50	2,670,808.50	97.24
メタン (CH ₄)	1,927.80	48,196.50	1.75
一酸化二窒素 (N ₂ O)	84.35	25,136.30	0.91
ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	2.06	2,945.80	0.10
合 計		2,747,087.10	100.00

●項目別排出量

項 目		使用量	単位	排出量	単位
燃料 使用 量	ガソリン	47, 178. 90	L	109, 452. 80	kg-CO2
	灯油	4, 296. 00	L	10, 696. 40	kg-CO2
				1. 42	kg-CH4
				0. 03	kg-N2O
	軽油	19, 691. 20	L	50, 802. 80	kg-CO2
				0. 00	kg-N2O
	A重油	600. 00	L	1, 626. 00	kg-CO2
				0. 03	kg-N2O
	L P G	114, 683. 50	kg	344, 048. 50	kg-CO2
				97. 57	kg-CH4
				1. 05	kg-N2O
	都市ガス	70, 029. 80	m3	156, 165. 80	kg-CO2
				75. 47	kg-CH4
				0. 83	kg-N2O
電気使用量		6, 682, 368. 50	kWh	1, 998, 016. 20	kg-CO2
公用車の走行量		663, 480. 00	km	8. 03	kg-CH4
				14. 64	kg-N2O
浄化槽による処理量		2, 953. 60	人	1, 742. 58	kg-CH4
				67. 76	kg-N2O
自動車用エアコンディショナー使用台数		206. 00	台	2. 06	kg-HFC
総排出量		2, 747, 087. 10			kg-CO2



2 令和7年度 温室効果ガスの排出状況

(1) 種類別の温室効果ガス排出量 **[結果] 基準年度比:47.7%削減 前年度比:29%削減**

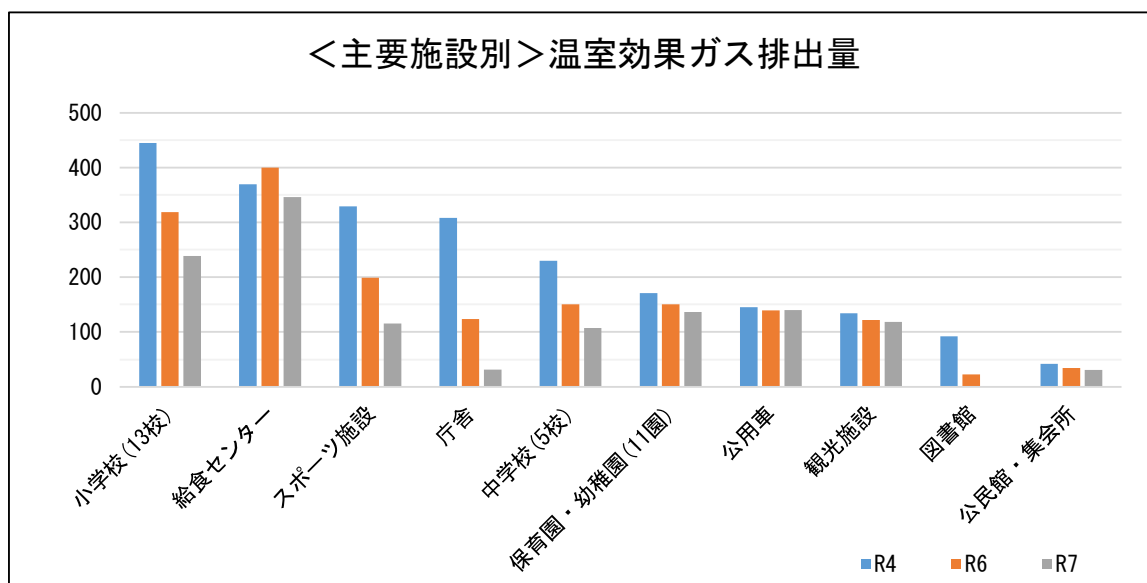
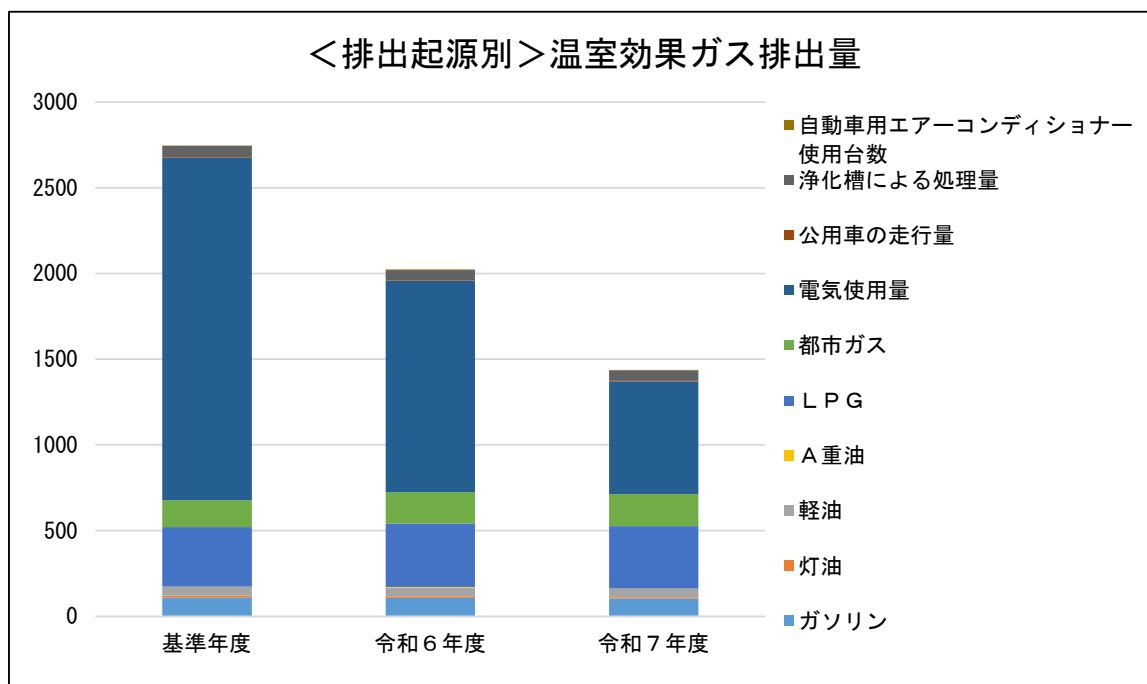
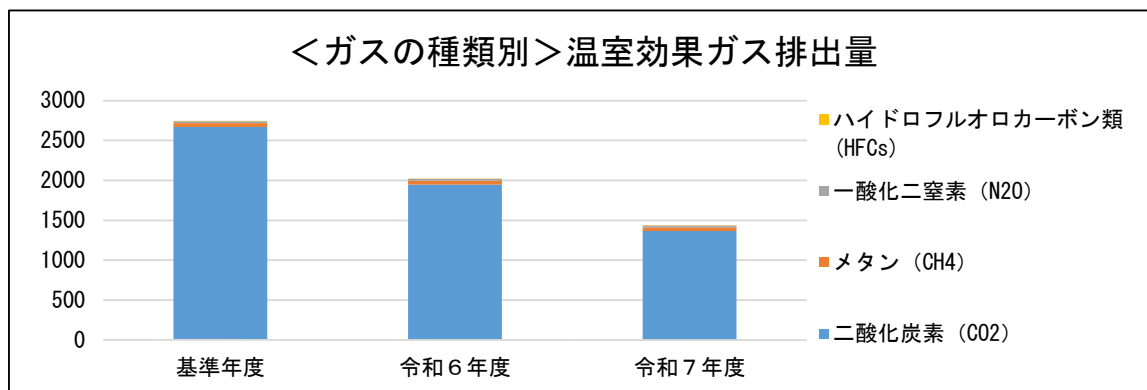
ガスの種類	温室効果ガス排出量（単位：t-CO2）				
	令和4年度 （基準年度）	令和6年度	令和7年度	基準年度比	前年度比
二酸化炭素（CO2）	2,670.8	1,949.6	1,365.0	51.1%	70.0%
メタン（CH4）	48.2	46.6	46.1	95.6%	98.9%
一酸化二窒素（N2O）	25.1	24.2	23.9	95.2%	98.8%
ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）	2.9	3.2	2.6	89.7%	81.3%
合 計	2,747.0	2,023.6	1,437.6	52.3%	71.0%

(2) 排出起源別の温室効果ガス排出量

排出起源		温室効果ガス排出量（単位：t-CO2）				
		令和4年度 （基準年度）	令和6年度	令和7年度	基準年度比	前年度比
燃料 使用 量	ガソリン	109.5 4.0%	107.0 5.3%	102.8 6.5%	93.9%	96.1%
	灯油	10.8 0.4%	9.7 0.5%	8.9 0.5%	82.4%	91.8%
	軽油	50.8 1.8%	50.2 2.5%	47.0 3.0%	92.5%	93.6%
	A重油	1.6 0.1%	3.3 0.2%	2.1 0.1%	131.3%	63.6%
	LPG	346.5 12.6%	370.0 18.3%	365.0 23.4%	105.3%	98.6%
	都市ガス	158.3 5.8%	183.3 9.1%	187.4 11.7%	118.4%	102.2%
電気使用量		1,998.0 72.7%	1,232.0 60.9%	656.8 50.4%	32.9%	53.3%
公用車の走行量		4.6 0.2%	4.6 0.2%	4.5 0.3%	96.7%	96.7%
浄化槽による処理量		64.0 2.3%	60.3 3.0%	60.4 3.9%	94.4%	100.2%
自動車用エアコンディショナー使用台数		2.9 0.1%	3.2 0.2%	2.7 0.2%	93.1%	84.4%
合 計		2,747.0	2,023.6	1,437.6	52.3%	71.0%

(3) 主要施設別の温室効果ガス排出量

施設名	温室効果ガス排出量（単位：t-CO2）				
	令和4年度 （基準年度）	令和6年度	令和7年度	基準年度比	前年度比
小学校(13校)	444.6	318.8	238.7	53.7%	74.9%
給食センター	369.2	399.8	346.2	93.8%	86.6%
スポーツ施設	328.9	198.8	115.2	35.0%	57.9%
庁舎	308.0	123.3	31.4	10.2%	25.5%
中学校(5校)	229.8	150.4	106.9	46.5%	71.1%
保育園・幼稚園(11園)	170.5	149.0	136.4	80.0%	91.5%
公用車	145.1	139.4	139.5	96.1%	100.1%
観光施設	133.9	121.8	117.9	88.1%	96.8%
図書館	91.8	22.9	0.0	0.0%	0.0%
公民館・集会所	42.3	34.4	30.9	73.0%	89.8%



(4) まとめ

洲本市の事務事業における温室効果ガス排出量は、集計の結果、1,437.6t-CO2となり、基準年度である令和4年度と比較して、47.7%削減できました。

主な削減要因として、電力使用に伴う温室効果ガス排出量が減少していることがあげられ、生可能エネルギーを活用した電力会社（中部電力ミライズ）からCO2フリー電力を調達したことで、温室効果ガス排出量の削減につながりました。

また、各小学校及び保育所において、灯油使用の暖房器具からエアコンに使用転換を図ったことで、灯油使用量が大幅に減少しました。

<排出起源別の増減要因>

項目		基準年度比	増減要因
燃料 使用 量	ガソリン	93.9%	子ども子育て課、人権文化センター等で増加しているが、企画課、市民協働課等で減少しており、全体では減少となっている。
	灯油	82.4%	税務課、各小学校、保育所等で減少しており、全体で減少となっている。
	軽油	92.5%	消防防災課等で増加しているが、生活環境課で減少しており、全体では減少となっている。
	A重油	131.3%	用地課所管のポンプ場で増加している。 ※A重油の使用は用地課のみ
	L P G	105.3%	各保育所、小学校等で増加しているが、五色給食センター等で減少しており、全体では増加となっている。
	都市ガス	118.4%	各小学校、文化体育館で増加していることが影響し、全体で増加となっている。
電気使用量		32.9%	上記のとおり
公用車の走行量		96.7%	秘書広報課等で増加しているが、総務課等で減少しており、全体としては減少となっている。
浄化槽による処理量		94.4%	保育所及び市営住宅において減少しており、全体として減少となっている。
自動車用エアコンディショナー使用台数		93.1%	公用車の台数が減少しているため。 (206台 → 185台)